

★：特設サイトにて音源公開中

\*職位は当時のもの

年・月	カテゴリ	日	タイトル	学部	職位	担当者	音源データの有無
2004年4月	衛生学の世界			医学部	教授	大前和幸	
		2日	日本の人口と日本人の健康				○
		9日	John Snowと高木兼寛：疫学のはじまり				○
		16日	がん発症予防の可能性				○
		23日	「問題は量である」：中毒学の公理				○
		30日	大気環境基準と三宅島				○
5月	よくわかる「指輪物語」			文学部	助教授	辺見葉子	
		7日	人とエルフの恋物語	文学部	助手	高橋勇	○
		14日	「死なない」ことの意味	文学部	助手	高橋勇	○
		21日	‘Into the West’	文学部	助教授	辺見葉子	○
		28日	「指輪」の力	文学部	助教授	辺見葉子	×
6月	現代社会が抱える問題を経済理論と歴史で考える			経済学部	教授	塩澤修平	
		4日	今、日本経済に何が起きているか				○
		11日	経済学の視点で考える				×
		18日	歴史に学ぶ				×
		25日	あるべき社会と個人の姿を探る				×
7月	国際犯罪と犯罪の国際化－国際刑事法を考える						
		2日	国際刑事法の歴史を振り返って－東京裁判を中心に	法学部	専任講師	フィリップ・オステン	×
		9日	国際犯罪の処罰と国際刑事裁判所の役割	法学部	専任講師	フィリップ・オステン	×
		16日	犯罪の国際化とその対策（Ⅰ）－外国人の犯罪とその対策	法学部	名誉教授	宮澤浩一	×
		23日	犯罪の国際化とその対策（Ⅱ）－「黒い金」の処理をめぐる問題（資金の洗浄）	法学部	名誉教授	宮澤浩一	×
		30日	犯罪の国際化とその対策（Ⅲ）－国際政治の反映する刑事法の問題	法学部	名誉教授	宮澤浩一	×
8月	経済学の面白さを知ろう			商学部	教授	中島隆信	
		6日	なぜ経済学を学ぶのか				○
		13日	経済学のキーワード：インセンティブと市場メカニズム				○
		20日	市場と組織の使い分け				○
		27日	大相撲の経済学				○
9月	前近代フランス社会と高齢者			文学部	助教授	藤田苑子	
		3日	「高齢社会」の現状と史料について				○
		10日	高齢者の数と実態				○
		17日	高齢者「像」と社会の対応				○
		24日	まとめ 18世紀後半の変化				○
10月	スミス以前の経済学			経済学部	教授	丸山徹	
		1日	スミス以前の経済学①				○
		8日	スミス以前の経済学②				○
		15日	スミス以前の経済学③				○
		22日	スミス以前の経済学④				○
		29日	スミス以前の経済学⑤				○
11月	遺伝とゲノム			法学部	専任講師	小野裕剛	
		5日	遺伝と遺伝子再考～現代の考え方				○
		12日	ヒトゲノム計画の原理と背景				○
		19日	ヒトゲノム計画の今後とその応用				○
		26日	遺伝子・ゲノム研究の現場から				○
12月	メディアと社会生活			環境情報学部	助教授	加藤文俊	
		3日	メディア環境の変化				○
		10日	ケータイと日常生活				○
		17日	変わる大学				○
		24日	セキュリティ感覚				○
		31日	ネットワーク時代のアイデンティティ				○
2005年1月	心理学と考古学の出会い			文学部	教授	増田直衛	
		7日	対談 縄文紋様にあらわれた古代人の心	文学部	教授	増田直衛	○
				文学部	講師	櫻井準也	
		14日	対談 お墓から昔の人の心を読む	文学部	教授	増田直衛	○
				千葉商科大学	助教授	朽木量	
		21日	対談 図像化にあらわれた物を見る眼	文学部	教授	増田直衛	○
			文学部	講師	櫻井準也		
	28日	対談 お墓の文字の読み方～プロの眼	文学部	教授	増田直衛	○	
			千葉商科大学	助教授	朽木量		

★：特設サイトにて音源公開中

\*職位は当時のもの

年・月	カテゴリ	日	タイトル	学部	職位	担当者	音源データの有無
2月	経済開発政策の着想と実践			経済学部	教授	高梨和紘	
		4日	「開発経済学」における貧困メカニズムの素描 農村の役割と開発戦略への示唆				○
		11日	農村地域の零細・小規模事業による生産活動 大規模・近代的工業化に対する「もう一つの工業化」				○
		18日	農村地域の零細・小規模事業を支える融資活動 融資を受ける権利と起業、自立				○
		25日	人的資源開発命題の再考 人的資源の需要・必要と供給側の対応				○
3月	道徳問題と法—アメリカにおける革命的判決から学ぶこと			法学部	助教授	駒村圭吾	
		4日	道徳問題と法、その異同				○
		11日	ブラウン対教育委員会事件判決（1954年）（人種別学制違憲判決）				○
		18日	ローレンス対テキサス事件判決（2003年）（ソドミー処罰法違憲判決）				○
		25日	まとめ 道徳的争点をいかに裁くか				○
慶應義塾の時間「入門講座」（月～木） 「立国は私なり」—福澤諭吉の思想—							
2005年1月	20日	木	「立国は私なり」—福澤諭吉の思想—	経済学部	教授	小室正紀	○
慶應義塾の時間「入門講座」（月～木） 「ドイツの歴史—社会と文化その諸相」							
1月	24日	月	「近世の農村1：農場立退処分—領主の無慈悲と農民の自立」	経済学部	助教授	飯田恭	○
	25日	火	「近世の農村2：農場の世襲？—農村における血縁関係と婚姻関係」	経済学部	助教授	飯田恭	○
	26日	水	「アイデンティティの模索1：「ドイツ」の誕生—「グリム童話」が生まれた時代」	経済学部	教授	七字真明	○
	27日	木	「アイデンティティの模索2：文化の受容と再生産—ゲーテから画家ベックマンへ」	経済学部	教授	七字真明	○
	31日	月	「戦後社会1：過去へのまなざし—戦後補償」	経済学部	教授	矢野久	○
2月	1日	火	「戦後社会2：他者へのまなざし—戦後補償」	経済学部	教授	矢野久	○
	2日	水	「鼎談1」	経済学部	助教授	飯田恭	○
	3日	木	「鼎談2」	経済学部	教授	七字真明	○
慶應義塾の時間「入門講座」（月～木） 「言語と社会」研究入門							
2月	7日	月	社会言語学という視点				○
	8日	火	言語と社会—マクロな視点—				○
	9日	水	言語と社会—ミクロな視点—				○
	10日	木	相互行為の社会言語学				○
	14日	月	コミュニケーション能力と社会				○
	15日	火	言語とジェンダー				○
	16日	水	社会言語学としての英語学				○
	17日	木	21世紀の社会言語学—コミュニケーションの生態学へ—				○
慶應義塾の時間「入門講座」（月～木） 世界経済論入門—グローバル化とアジア経済—							
2月	21日	月	第1次グローバル化—イギリス産業革命				○
	22日	火	第1次グローバル化—イギリス産業革命				○
	23日	水	第2次グローバル化—G A T T・IMF体制				○
	24日	木	第2次グローバル化—南北問題におけるアジア				○
	28日	月	第3次グローバル化—開幕				○
3月	1日	火	グローバル化とアジアの近代化				○
	2日	水	中国経済近代化と改革開放政策				○
	3日	木	ASEANの最新動向とアジアの共生				○
慶應義塾の時間「入門講座」（月～木） 書簡から見た福澤諭吉							
3月	7日	月	福澤諭吉の原点		名誉教授	坂井達朗	○
	8日	火	慶應義塾—理念と経営（1）	志木高等学校	教諭	松崎欣一	○
	9日	水	慶應義塾—理念と経営（2）	志木高等学校	教諭	松崎欣一	○
	10日	木	理財と実業（1）	経済学部	教授	小室正紀	○
	14日	月	理財と実業（2）	経済学部	教授	小室正紀	○
	15日	火	民権と国権（1）	法学部	教授	寺崎修	○
	16日	水	民権と国権（2）	法学部	教授	寺崎修	○
	17日	木	家庭と日常	福澤研究センター	研究員	西澤直子	○
慶應義塾の時間「入門講座」（月～木） ケインズ経済学とその周辺							
3月	21日	月	大きな政府と小さな政府（1）				○
	22日	火	大きな政府と小さな政府（2）				○
	23日	水	マーシャル、古典派、ドイツ歴史学派（1）				○
	24日	木	マーシャル、古典派、ドイツ歴史学派（2）				○
	28日	月	ケインズ経済学とその周辺の「自由放任の終焉」（1）				○
	29日	火	ケインズ経済学とその周辺の「自由放任の終焉」（2）				○
	30日	水	ケインズ「一般理論」の政策思想（1）				○
	31日	木	ケインズ「一般理論」の政策思想（2）				○